

奥州市前沢区

平成23年10月23日(日)
13:30～

はったんちょう こじょうはやしいせき 八反町・古城林遺跡

—古代ムラのリーダーが眠る地か—
現地説明会資料



古城林遺跡9区を調査中（東より撮影）

公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手の遺跡略年表

年代	時期区分	遺物	主な事柄	主な国・県指定史跡	主な調査遺跡					
BC10000年	旧石器時代		大型動物が生息する 気候が温暖になる		遠野市金取遺跡 奥州市上萩森遺跡 西和賀町大台野遺跡 西和賀町大渡Ⅱ遺跡					
8000年	縄文時代	石器・木器・骨角器	土器の使用が始まる 大規模なムラができる	大船渡市関谷洞窟	岩泉町龍泉洞新洞遺跡 盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡 住田町蛇王洞穴遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡 陸前高田市牧田貝塚 大船渡市蛸ノ浦貝塚 北上市権山遺跡 一戸町御所野遺跡 北上市八天遺跡 一関市貝鳥貝塚	八反町・古城林遺跡				
4000年							草創期			
3000年							早期			
2000年							前期			
1000年							中期			
300年	弥生時代	弥生土器	稲作が始まり、金属器が使用される 卑弥呼が邪馬台国王となる	大船渡市上鷹生遺跡 北上市九年橋遺跡	大船渡市上甲子遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢村湯舟沢遺跡 奥州市常盤広町遺跡	八反町・古城林遺跡				
AD300年							晩期			
400年	古墳時代	土器	大和朝廷が国家統一する 古墳が各地につくられる 仏教が伝わる 聖徳太子が摂政となる 大化の改新がおこる	奥州市角塚古墳 矢巾町藤沢狄森古墳 北上市江釣子古墳群 岩手町仙波堤・今松遺跡 岩手町浮島古墳群	盛岡市永福寺山遺跡 奥州市高山遺跡 奥州市中半入遺跡 奥州市石田Ⅰ・Ⅱ遺跡 北上市猫谷地遺跡 奥州市石田Ⅰ・Ⅱ遺跡 奥州市膳性遺跡 宮古市長根Ⅰ遺跡	八反町・古城林遺跡				
600年							奈良時代			
800年							平安時代	奈良に都がつくられる 京都に都がつくられる 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	奥州市胆沢城跡 盛岡市志波城跡 矢巾町徳丹城跡	盛岡市台太郎遺跡 奥州市石田Ⅰ・Ⅱ遺跡 花巻市似内遺跡 奥州市宮地・落合Ⅱ遺跡 軽米町皂角子久保Ⅵ遺跡 二戸市飛鳥台地Ⅰ遺跡
1000年								須恵器	前九年・後三年の役がおこる	平泉町毛越寺跡・無量光院跡・ 中尊寺境内・平泉町柳之御所遺跡
1200年	鎌倉時代	陶器	鎌倉幕府ができる 文永・弘安の役おこる 室町幕府ができる 応仁の乱おこる	北上市下門岡ひじり塚 宮古市一石一字経塚	盛岡市繫Ⅲ遺跡 金ヶ崎町松本館跡 花巻市笹間館跡 一戸町一戸城跡 紫波町柳田館跡 久慈市久慈城跡 遠野市篠館跡 大船渡市猪川館跡	八反町・古城林遺跡				
1400年							室町時代			
1600年	安土桃山時代	磁器	秀吉全国統一する	二戸市九戸城跡	奥州市北館跡	八反町・古城林遺跡				
1800年	江戸時代	器	江戸幕府ができる 鎖国が始まる	盛岡市盛岡城跡 南部領伊達領境塚 北上市二子・成田一里塚 旧中山・小繫・川底一里塚 釜石市栗林銭座跡 釜石市橋野高炉跡	紫波町栗田Ⅲ遺跡 遠野市佐比内鉄鉱山跡	↑ ↓				
近・現代							明治維新	奥州市高野長英旧宅		

はじめに

八反町・古城林遺跡の発掘調査は、奥州市前沢区古城地区の圃場整備事業にともない、遺跡の一部が消滅してしまうため、「遺跡の記録保存」を目的として行なわれています。今回は八反町遺跡と古城林遺跡の、2つの遺跡を同時に調査しています。その調査区は広く23地点に点在します。調査区は1～23区と名づけましたが、1・3～7区が終了し、現在は9区と10区の調査を行っています。

所在地：岩手県奥州市前沢区古城字林後126番地地先ほか

事業名：経営体育成基盤整備事業古城2期地区

委託者：県南広域振興局農政部農村整備室

発掘調査予定期間：平成23年4月26日～11月30日

発掘調査対象予定面積：八反町1,134㎡ 古城林18,029㎡

遺跡略号・番号：八反町・・・HTC-11・NE36-2379

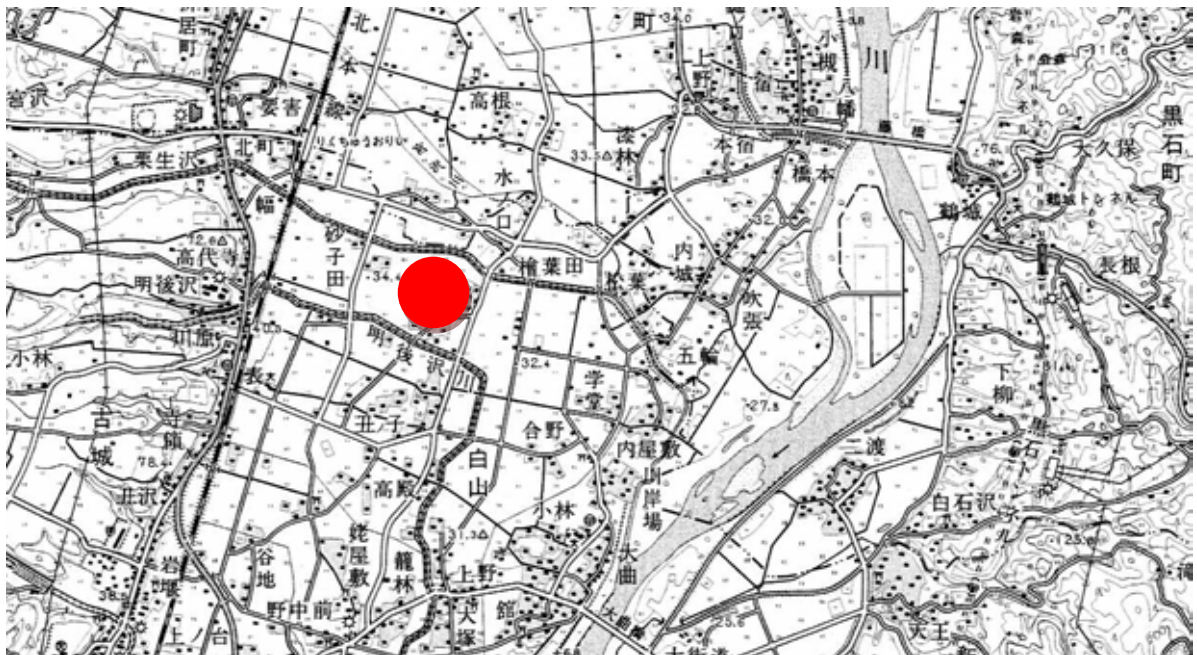
古城林・・・KJH-11・NE36-2379

調査機関：(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

調査担当者：星 雅之・杉沢昭太郎・丸山直美・西澤正晴・高橋麻依子

1. 遺跡のある場所について

八反町遺跡と古城林遺跡は、奥州市前沢総合支所から北東へ約4.4km、JR陸中折居駅から南東約1.3kmの位置にあります。今回の調査箇所（調査区）は、北には松の木沢川、南には明後沢川が流れ、この2つの河川に挟まれた約600m四方に点在します。遺跡内の標高は32m前後で、周りは水田や畑が広がります。



八反町・古城林遺跡の位置(S=1:50,000 水沢)

2. 遺跡の^{きほんどそう}基本土層

地層は、古い時代ほど下に、新しい時代が上に積み重なります。発掘調査は、土の色、土の質、土の中に含まれる^{こうぶつ}鉱物・^{いぶつ}遺物の違い、火山灰の有無などを見極めながら基本となる土層をさぐる事が大切になります。この遺跡の土層を新しい時代順にローマ数字で示すと、以下のようになります。

I層・・・表土全般 耕作土や盛土など昭和・平成と考えられる土層です。

II層・・・黒～こげ茶色の土で、古代に形成されたと考えられる土層です。調査区全体では水田造成や畑を耕す際に削られ消失している部分が多いようです。8月に調査が終了した7区では、黒土中に十和田a火山灰（※915年頃に降下）が確認されていますが、現在調査中の9区の井戸跡からも見つかりました。

III層・・・茶色の土で縄文時代に形成されたと考えられる土層ですが、土器などはあまりみつきりません。

IV層・・・黄色い粘土層で土器などは発見されない、とても古い土層です。

3. 見つかった^{いこう}遺構と^{いぶつ}遺物

今回の調査では、縄文時代と古代～近世の^{いこう}遺構・^{いぶつ}遺物が発見されました。下記の遺構数や遺物量は10月13日時点での内容なので、今後の調査でさらに増加することが確実です。

(1) 遺構 (いこう)

「遺構」とは、昔の人が地面に残した活動の痕跡（建物や穴など）のことを言います。今回の調査では、^{たてあな}竪穴住居跡2棟、^{えんけいしゅうこう}円形周溝1基、住居状2基、^{ほったてばしらたてものあな}掘立柱建物跡14棟以上、堀1条、溝跡37条以上、土坑58基、井戸跡6基、^{おと}陥し穴6基以上、柱穴状土坑1000基以上、柱穴列1基、不明遺構7基が発見されました。これらの遺構は古代（特に平安時代）が多く、次いで中世や近世と推定されるものが多いです。以下に主な遺構を紹介します。

竪穴住居跡の床下には浅い穴が設けられており、その中から土師器の坏がまとまって見つかりました。**円形周溝**は円形に溝が掘られた遺構で、当時はこの溝に囲まれた空間に^{ふんきゆう}墳丘が築かれ、有力者が埋葬されていたと推定されます。**掘立柱建物跡**は、柱穴の配置関係から14棟が復元できましたが、今後の検討如何ではさらに増えると思われます。**井戸跡**は、深さ2m前後と比較的浅いものが主流です。**堀跡**は約5.5mの上幅で総全長70mに延びる大規模なものです。獣を捕獲するわなである^{おと}陥し穴は、上からみた形が小判状若しくは円形で底に小穴（逆茂木痕？）を持つものと、細長い溝状の2つのタイプが見つかりました。

(2) 遺物 (いぶつ)

「遺物」について、土の中から出てきた「もの」全般を遺物と呼びます。今年度の調査では縄文土器少量、土師器・須恵器など古代の土器、中世～近世の陶磁器、土製品、石器などが、合わせてみかん箱で5箱分が見つっています。土器は、今回の調査では完全な形のもの少なく、大部分は破片で見つかります。石器は黒曜石で作られた縄文時代の矢じりも見つっています。遺物は少ない感が否めませんが、これから増えるかもしれません。

4. 調査のまとめと課題^{かだい}など

発掘調査の結果、縄文時代は狩猟場として、古代は集落や有力者の墓地として、中世～近世は堀を持つ建物空間として、長い間営まれていた場であることが分かりました。時代毎にまとめてみます。

(1) 縄文時代

陥し穴は、①小判状若しくは円形で底に小穴(逆茂木痕?)を持つものと、②細長い溝状の、2つのタイプが見つかりました。大きさは、①のタイプは長さや幅が1m前後、深さが80cm以下が多いのに対して、②のタイプは長さが3m以上、幅30cm前後、深さ1m以上を測ります。形だけでなく大きさも明らかに違いが見受けられます。①のタイプは小動物か若しくは幼獣を、②のタイプはシカの捕獲を意図したことなどが想定されるでしょうか(これについては配置関係を含め検討中)。つくられた時期については、過去の研究から①のタイプは縄文時代の中でも早期や前期(今から約6000～5500年前くらい)など古い時期に、②のタイプは中期後半～後期前半(今から約4000～3500年前)でやや新しい時期と考えられます。また、最近の研究から陥し穴猟の行われた季節について、埋め土などの観察から多くは霜の降る季節より前(秋～初冬)につくられているのではないかとする説もあります。様々な視点から分析・検討する情報を提供できるように、今後も詳細な観察や調査記録を残すよう努めていきたいと考えています。

(2) 古代

この遺跡の中心となる時代で、特に平安時代において人的活動が盛んであったことが窺^{うかが}えます。現時点での調査成果からは、①当時の有力者の墓と考えられる円形周溝が見つかりその周辺で掘立建物跡をはじめとする多くの柱穴が見られること、②竪穴住居跡は少ないが井戸は一定数見つかること、③畑や水田などの生産遺構が見つからないこと、などが指摘できるでしょうか。このことは、今回の調査地点が当時の平安時代の集落の中心地とするより、聖域的な核心空間とでも言えるような場であったのではないかと考えられ、合わせて集落の中心地は9・10区の南側に広がる畑地にあるのではないかと、推定しています。ただ、調査は今後も広範囲にまだまだ続きますので、この遺跡の性格や全容について、その解明に努めていきたいと思えます。

(3) 中世・近世

中世や近世については、掘立柱建物跡、堀跡、溝跡など、その時代につくられたと推定される遺構は多数見つかっています。また、大規模な堀跡が見つかったことで、中世若しくは近世において当時の核心地の一つであったことがわかりました。ただ、課題として遺物が少なくそれらがつくられた確実な時代を特定できずにいます。松の木沢川を挟んで北に近接して位置する六日入城跡との関連を視野に、地域史を解明する手掛かりを模索していきたいと考えております。

最後に、文末になりましたが、この発掘調査を進めるにあたり、県南広域振興局農政部農村整備室、奥州市教育委員会、岩手県教育委員会の諸機関ならびに発掘調査に従事されている作業員の方々、そして日頃の調査を温かく見守ってくださっている地元の方々に厚くお礼申し上げます。



円形周溝（えんけいしゅうこう）

平安時代の地元有力者のお墓（古墳）とみられる施設です。溝に囲まれた内側は土を盛り上げて丘のようになっていたと考えられています。



掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもものあと）柱穴を掘り、柱を据えてつくられた建物です。この写真の掘立柱建物跡は中世の建物と考えています。



平安時代の竪穴住居跡の床下に掘られた土坑の中から土師器の坏が複数見つかりました。



井戸跡（平安時代）

9区のほぼ中央に位置します。深さは2m弱あります。井戸にしては浅いほうかな？



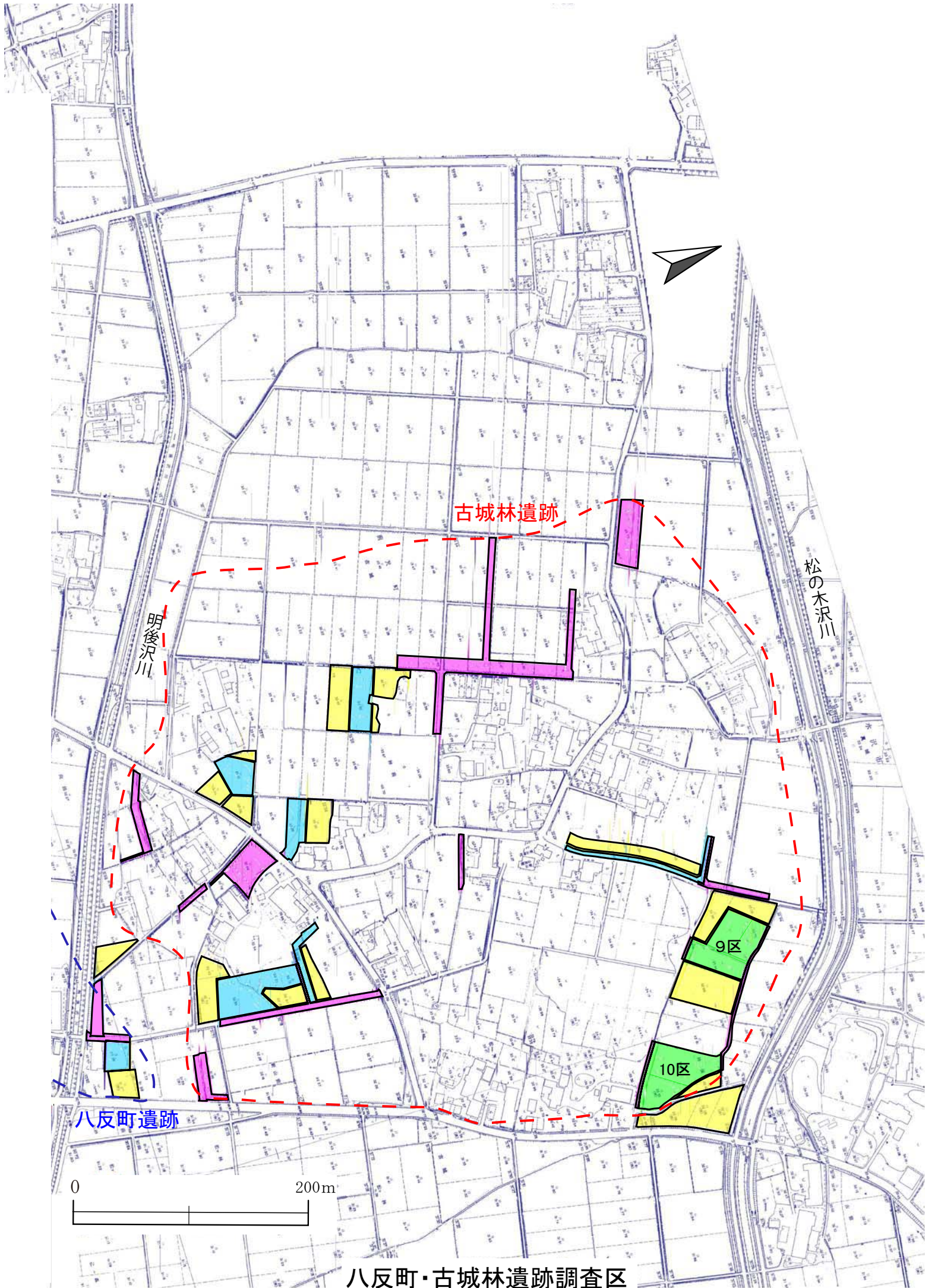
堀跡

南北方向45m、東西方向25m以上を取り囲むように堀が巡ります。出土遺物が少なく、いつの時に造られたものかまだ分かっていません。



陥し穴（縄文時代）

動物を獲るために掘り込まれたもので、深く溝状に掘ることにより、獲物が動けないように工夫されています。

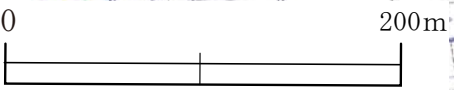


古城林遺跡

明後沢川

松の木沢川

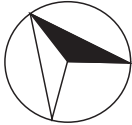
八反町遺跡



9区

10区

八反町・古城林遺跡調査区



9区



10区

9・10区遺構配置図

S=1/500